

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/09/01～2019/09/30)

### 1. 勉学の状況

9月は、ドイツ語の語学コースがありました。初旬にコース分けテストを行い、私はB2のクラスに入りました。クラスは12人で、アジア圏から5人、ヨーロッパ圏から7人、うち日本人は私含め2人でした。

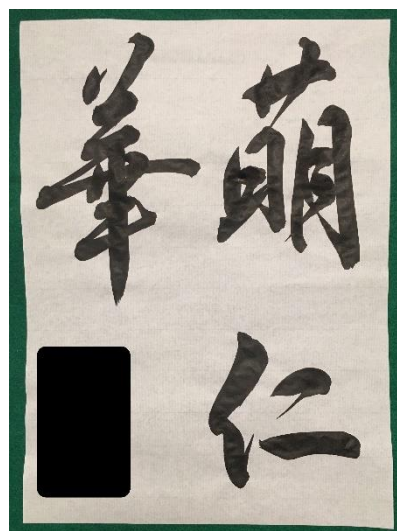
話に聞いていた通りヨーロッパ圏の学生は、アジア圏の学生に比べスピーキングもリスニングもよくできるなあという印象でした。授業中も頻繁に発言・質問していたので、私も負けじとわかるところは積極的に発言するようにしました。

語学コースでは、一人一回プレゼンテーションをすることになっていました。テーマは自由で、私は「日本の書道」について発表しました。小学生の頃からずっと書道を習っているのと、どうせなら過半数を占めるヨーロッパ圏の学生にウケそうなものがない、と思いこのテーマを選びました。

発表では、書道とは何か・書道の歴史・用具などを紹介し、最後に書道の実演を行いました。まず自分の名前を書いて見せてから、同様に名前を書いてほしい学生を募りました。イタリア人の女の子が手を挙げてくれたので、名前に漢字をあて、筆で書いてプレゼントしました。発表準備にはかなり時間がかかりましたが、学生だけでなく先生もとても興味を持ってくれたのでよかったです。

翌日の授業後、ギリシャ人の女の子になんと「自分の名前も書いてほしい」と頼まれ、びっくりしたのですがとても嬉しかったです。次の日授業終わりに渡すと、それを見ていたスロベニア人の女の子に「私の名前も書いてくれる？」と言われたので、また書いて次の日に持って行きました。2人ともとても喜んでくれ、14年間書道を続けてきてよかったなあと思いました。

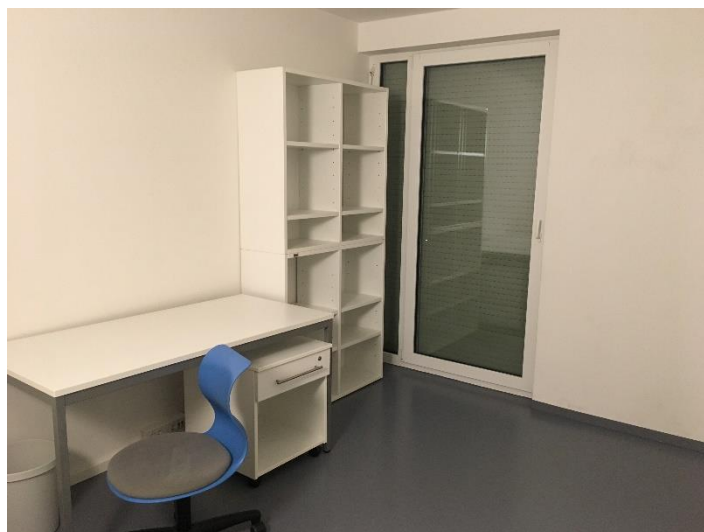
まだ語学コース全体の正式な成績は出ていませんが、先生によると1.0～2.0はあげられると思う、とのことでした（ドイツでは1が最高、6が最低）。数字だけ見ればクラスで2位なのですが、実際のドイツ語能力は他のヨーロッパ圏の学生をかなり下回っているように感じます。特にリスニングが苦手なのと、語彙が足りていないので、本格的に大学の授業が始まるまでの間特訓したいと思いません。



↑ギリシャ人の女の子の名前

## 2. 生活の状況

9月初めに寮に入りました。寮は1人部屋で、キッチンとバスルームが共同です。ルームメイトはアルバニア人の女の子でした。すでに6年間ここに住んでいるというベテランで、「キッチンと洗面所はとにかくきれいに使うこと」「私のものは私のもの、あなたのものはあなたのもの」が主なルールだと教わりました。キッチンが共同だと冷蔵庫のものを勝手に使われてしまわないか心配だったので、そんなことは起こりようもなさそうです。



↑寮の部屋。映っていないがベッドもあり、かなり広々

9月の前半は、ドイツに住むにあたってのさまざまな手続きに追われていました。

手続きはいろいろとありますが、最終目標は滞在許可の取得です。ちなみに私自身、最終的には「ビザ」を取得するものだと思っていたのですが、どうやらビザは「ドイツに入国するのに必要な証明」なので、必要ないということです。代わりに必要になるのが「滞在許可（Aufenthaltserlaubnis）」で、これは入国後ドイツに滞在するために必要な証明です。ややこしいので一緒にされてしまうことも多いようなのですが、ビザと滞在許可は全く別物なので注意が必要だそうです。

自分自身の記録もかねて、ここに滞在許可取得までの流れを書いておきます。今後ドイツに留学する方の一助になれば幸いです。

1. ドイツの保険を契約
2. 市役所で住民登録（Anmeldung）
3. 住民登録証明（Meldebestätigung）と税金確認番号（Steueridentifikationsnummer）をもらう
4. 銀行で普通口座を開設（私は Sparkasse で開設しました。他の留学生にも Sparkasse が人気です。）
5. 開設した口座に滞在月数×853€を振り込む（閉鎖口座開設の下準備）
6. 大学に登録（Registration）、学生証と学籍登録証明書（Immatrikulationsbescheinigung）をもらう
7. 外国人局（Ausländerbehörde）で閉鎖口座（Sperrkonto）開設のための書類をもらう
8. 銀行で閉鎖口座を開設

9. 住民登録・閉鎖口座・学籍登録証明書・保険の契約書・パスポートなどすべての書類をそろえ、外国人局に提出
10. 滞在許可取得

1、6 については留学先の大学によって順番が異なりますが、その他の項目に関してはこの順番で手続きを進めます。項目はたくさんありますが、すべて順番が決まっており、この順番を間違えると「〇〇という書類が必要なので、△△に行ってからまた来てね」と言われます。私自身何度このシチュエーションに出会ったかわかりません。本当に滞在許可をもらえるのか心配になったこともありましたが、9/30 以降に滞在許可証を受け取りに来るようにとのメールがあったので、まもなくすべての手続きを終えられそうです。

9 月後半は手続きが落ち着いたので、3 週目の週末にはニュルンベルクに行きました。ニュルンベルクはきれいな街並みが有名で、それゆえヒトラーが好んだ街でもありました。ナチス時代には党大会が開催され、当時の建築物も複数残っています。

ニュルンベルク旧市街からバスで 30 分ほど行ったところに、「帝国党大会会場文書センター（  
Dokumentationszentrum

Reichsparteitagsgelände）」という当時の議会建造物を利用した博物館があります。展示は、ナチスが政権をとる前の時代から戦後に戦犯が裁判で裁かれるまでの流れを詳しく説明しており、とても興味深かったです。

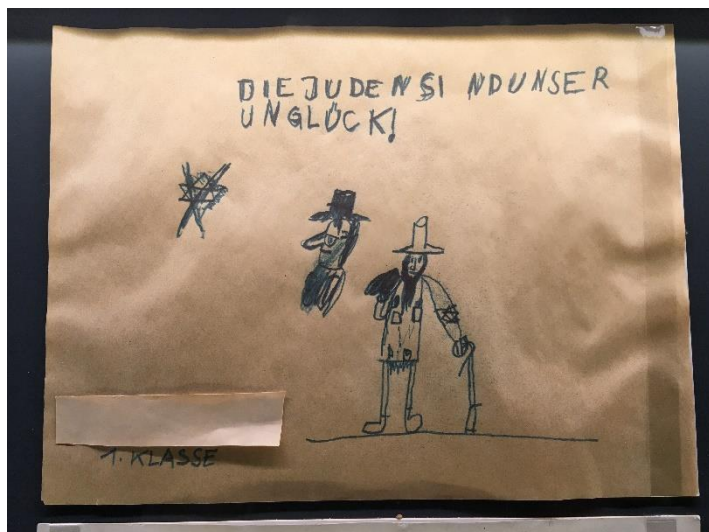


↑ニュルンベルクの街並み



↑ナチスが建てた当時の議会。博物館はこの建物に隣接

特に「ユダヤ人は私たちの不幸 (Die Juden sind unser Unglück)」と書かれた子どもの絵からは、当時のドイツの異常さが見てとれました。



←「ユダヤ人は私たちの不幸 (Die Juden sind unser Unglück)」と題された絵。左下には「1年 (1 Klasse)」と書かれている。当時の子どもたちはこのような絵を描かされていた。

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/10/01～2019/11/30)

### 1. 勉学の状況

10月からは、本格的に大学の授業が始まりました。とっている授業は、歴史学科の「20世紀における歴史的に重要な日(„Geschichtsmächtige Tage im 20. Jahrhundert“)」、留学生向けの「クリエイティブライティング(„Kreatives Schreiben 3“)」と、留学生向けの通常のドイツ語コースです。

一つ目の授業は、日本で調べてもともと講義を受けようと思っていた先生が担当しています。この授業は、現代史において歴史的に大きな転換点となった日を毎回一日とりあげて解説するというものです。受講者は100人くらいで、まわりを見てみると留学生はほとんどいない印象です。先生もドイツ人のいわゆる普通の会話スピード(これがかなり速い)で話すので、大事な部分はなんとか聞き取れるものの、それに付随する細かい情報やなぜそれが大事なのかということはまだ十分に理解できません。一度ドイツ人の友人と一緒に講義に来てくれたことがあったのですが、「これは完全にドイツ人向けの授業で、留学生には難しいと思う」とのことでした。これは留学のメインになる授業なので、リスニングの勉強を徹底して聞き取れる情報を増やしていきたいです。

二つ目のクリエイティブライティングは、大学の一機関である語学学校で行われる留学生向けの授業です。ドイツ語レベルに合わせて1～3の授業があり、1はA2、2はB1、3はB2～C1という具合です。2か3かで迷っていたのですが、語学学校の方からアドバイスをいただいて結局3にしました。3の授業を担当する先生は小説家で、内容は、ドイツ語で短い物語や詩を書くというものです。3というだけあって学生のドイツ語レベルは高く、また普段から詩や物語を書いているという人もかなりいます。一方私はクリエイティブにはあまり自信がないのですが、授業内でアイデアを出して話し合う場面ではできるだけ積極的に発言するようにしています。

三つ目のドイツ語コースは、9月から引き続きとっている通常の語学の授業です。9月はB2.1のクラスでしたが、10月からはB2.2に1段階レベルアップしました。授業の内容は、ロールプレイ、短いプレゼン、教科書を使ってのリスニング・リーディングなどで、やっていることは日本の語学の授業とあまり変わらない印象です。先生の話はほぼすべて理解できており、授業のレベルは自分に合っていると感じています。クラスの雰囲気はよく、和気あいあいと授業をしています。また、9月のクラスでは授業前や休み時間に会話する際、英語が使われることが多かったのですが、現在のクラスではみんなドイツ語で話しています。私は英会話ができないので9月の頃はあまり会話に参加できなかったのですが、今のクラスではむしろ自分から積極的に話しかけられるようになりました。

全体のコマ数としては、一つ目の授業が90分×週1回、二つ目が2時間半×週1回、三つ目が90分×週2回なので、日本の大学でいうと大体週5コマくらいに相当します。

また、10月からTestDaf（Test Deutsch als Fremdspracheの略。外国語としてのドイツ語のテスト）というドイツ語の検定試験に向けて勉強を始めました。ちょうど2月の帰国前に行われるということもあり、いい目標になるかなと思って申し込みました。この試験では、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能すべてが試されます。試験ではすべての受験者が同じ問題を解き、点数によって5、4、3、3未満の4段階にレベル分けされます。この試験はドイツの大学への入学条件としても利用されており、4技能すべてで4以上をとればドイツの大学に正規留学できます。私はこの4技能すべてで4以上を目標にしていますが、試験のレベルがそもそもヨーロッパ言語共通参照枠でB2～C1に相当するので、かなり頑張らないとな、という感じです。ちなみに日本人の友人を誘ったところ3人ほど一緒に受けてくれることになり、最近は週1回みんなで集まって勉強会をしています。

また、11月の末にハイデルベルクにある Dokumentations- und Kulturzentrum Deutscher Sinti und Roma（ドイツのシンティ・ロマの文書・文化センター）に行ってきました。文書センターとはいうものの中身は博物館のようなものです。私が行ったときは他の来館者はおらず、学芸員の方が最初だけ一緒に展示を見ながら解説してくださいました。その方はシンティで、現代のドイツ社会に残るシンティやロマに対する差別などについてのお話を聞きました。実際にシンティの方からお話を伺う機会はなかなかないので、とても興味深かったです。また、外国人の来館者のうち半分以上が日本人だということでも驚きました。それもあってか、館内では日本語のオーディオガイドが借りられます。



画像 1 ドイツのシンティ・ロマの文書・文化センター

展示で特に興味深かったのは、当時9歳だったドイツ人の女の子の話です。その女の子はいわゆる「アーリア人」の両親をもち、ドイツの一般家庭で育てられました。しかしナチスはその女の子の祖先を調べたところ、彼女が「8分の1シンティ」であることがわかりました。そして女の子はまもなく強制収容所に送られ、殺害されました。この話からは、当時のナチスがいかに異常であったかがわかります。

博物館の館内は思ったよりも広く、すでに二回行きましたがまだすべてまわりきれていません。近いうちにもう一回行こうと思っています。

## 2. 生活の状況

今回は主に食事について書こうと思います。食事は基本的に自炊していますが、授業終わりに Mensa（メンザ：ドイツの学生食堂）に行くこともあります。

日本の食材は Go Asia というチェーンのアジアンスーパーマーケットで買っています。私がいつも買っているのはみそ・だし・わかめ・醤油・めんつゆ・ごま油・うどん・カレールーなどです。特に調味料は他にも日本のものがたくさんあります。とても便利なのですが、やはり日本の製品は高いです。例えばカレールーは1箱4ユーロ（500円くらい）します。そのため普段は買わず、Go Asia は毎週土曜日に15%オフのセールを行っているので、できるだけその機会に買うようにしています。

その他一般的な食材の買い物では、寮から近い REWE（レーヴェ）というスーパーをよく利用しています。ドイツのスーパーで肉を買う際は、肉コーナーで Metzger（肉屋）に注文するのが一般的です。„500g Hähnchenbrust bitte.“（鶏むね肉500g ください）“というように注文するのですが、なぜかこの場面が留学生活の中でいつも一番緊張します。



画像 2 寮の近くの REWE

ハイデルベルクには私の知る

限り7種類のチェーン系スーパーがあります。

- ディスカウントスーパー：ALDI（アルディ）、Lidl（リドル）、PENNY（ペニー）
- 普通のスーパー：REWE（レーヴェ）、EDEKA（エデカ）
- 高級スーパー：Tegut（テグート）、Alnatura（アルナトゥーラ）

このなかでまわりの友人に人気なのは ALDI、PENNY、REWE あたりです。ちなみに高級スーパーの Alnatura は Bio 食品専門店です。Bio とはオーガニック製品につけられる称号のようなもので、たいてい普通の製品より高い値段で売られています。Bio 製品は他のスーパーでも買えます。

ドイツの学生食堂 Mensa（メンザ）についても書いておこうと思います。Mensa はハイデルベルクの街中にいくつかありますが、私がよく利用しているのは旧市街にある Zeughaus-Mensa というところです。夜23時くらいまで空いているので、授業終わりに利用

するのはいつもここです。ビュッフェ形式で、学生は 100g あたり 0.84 ユーロです。野菜、チーズ、肉、魚、米、パスタなど基本的になんでもあり、出るものは毎日変わります。私はいつも Mensa では魚や野菜などを食べています。というのもドイツでは魚が高く、例えばスーパーでサーモンを買くと 1 パックで 6~10 ユーロくらいするからです。

また Zeughaus-Mensa にはカフェとバーが併設されているので、コーヒーやお茶を飲みながらタンデムをしたり、夜に集まってお酒を飲んだりすることもできます。

11 月の最終週からは、クリスマスマーケットが始まりました。中心部の広場はすべてキラキラしていて活気があり、さまざまな商品売る屋台や本物のモミの木など、見ているだけでも楽しいです。日本でもクリスマスの時期は同じようにイルミネーションが行われたり街中が装飾されたりしますが、やはりドイツのクリスマスは本物だなあと感じました。



画像 3 ハイデルベルクのクリスマスマーケット



画像 4 はちみつから作ったろうそく (Honigkerzen) を売る屋台



学校が休みだった9月末から10月初めにかけては、ヴェネツィアとクロアチアのドゥブロヴニクを旅行してきました。ここまで長くなってしまったので、写真だけ載せておきます。



画像 6 ドゥブロヴニクの旧市街



画像 5 ブラーノ島のカラフルな街並み(ヴェネツィアから海上バスで40分ほど)

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/12/01～2020/02/25)

### 1. 勉学の状況

2月初旬に、すべての授業が終わりました。成績も出そろい、クリエイティブライティングの授業は1.5、レベル別のドイツ語コースは1.3でした。ドイツでは1が最もよいので、かなりよい成績をとれたのではないかと考えています。

クリエイティブライティングの最終回は、今までに書いた詩や物語などを発表するという内容でした。当日は飲み物や軽食が用意され、イベントのような感じで行われました。クリエイティブライティングⅢだけでなくⅠ・Ⅱの学生や教師、学生の友人などが70名ほど集まり、私が思っていたよりも大々的な催し物になりました。かなり緊張しましたが、読む際のリズムやイントネーションは前もって練習しておいたので、なんとかうまく読めました。

また2月の中旬に、TestDaFの試験を受けました。その前日は日本から来ていた友人とミュンヘンに行っていたのですが、帰りの電車が大幅に遅れ、ハイデルベルクについたのは午前2時でした。結局3時間ほどしか寝られず、明らかな睡眠不足の状態です。試験に臨むことになりました。もうダメかもしれない……とも思いましたが、受けてみると意外となんとかなったように感じます。手ごたえとしては、話す・聞く・書く・読むの4技能のうち、話すには不安がありますが、他はいけたのではという感じです。3月末に結果が出るので、それまで楽しみに待ちます。

### 2. 生活の状況

留学生活の大半は楽しく充実したものでしたが、時には嫌な思いをすることもありました。その一つが、アジア人に対する差別です。具体的には、新型肺炎が流行し始めた時期に「コロナウイルス」という言葉を投げかけられたこともありました。明らかにアジア人を見下す、またはちょっとからかってやろうという意図が含まれているように感じます。一緒にいた友人によると「絶対に失礼だとわかってやっている」とのことでした。

そのようからかってくる人は若い男性か小中学生くらいの子どもが大半で、必ず二人以上のグループでした。大人の人で言うてくる人はほとんどいなかったです。また、化粧をしていない&メガネをかけているときによく言われたように感じます。逆に化粧をしていて、コンタクトレンズをしていたときは言われることが少なかったです。こちらが一人かどうかは関係なく、例えば現地の友人といっても言われることはありました。

そこで私が実践していた対処法としては、①若い男性が二人以上で歩いてきたら、できるだけ離れてすれ違うようにする、②すれ違う可能性がない場合でも、そのようなグループを見かけたらできるだけ離れる、③街中に出るときは化粧をし、コンタクトレンズをする(メガネをかけな

い)の三つがあります。しかしこのように予防しても言うてくる人がいます。もう声をかけられ  
たら、とにかく無視し、なにも反応しないのが一番です。

ただ、このようなことをするのは本当に一部のみに過ぎません。たいていの人とはとても親切で、  
例えば街中で困っているとよく助けてくれます。私の友人が日本から遊びに来た際、一日だけ私  
が付き添えなかった日があったのですが、その日は何度も街の人に助けられながら目的地にた  
どり着いたそうです。

半年間ドイツで暮らしてみて、ほとんどの人は私のような外国人に対しても現地の人と同様  
に接してくれるのだと感じました。おそらくナチスの過去や、身のまわりに外国人が多いので慣  
れているというのがその理由だと思います。もしかしたら、ドイツ語で話すというのも重要なポ  
イントかもしれません。なにせよ、現地の人と同じように接してもらうことで、とても暮らし  
やすかったです。

サービス面では日本に劣ることもかなり多いドイツですが（日曜日にはスーパー含めほぼす  
べての店が閉まる、ドイツ鉄道は高いのに遅延ばかり、公的機関は仕事が遅い…など挙げていけ  
ばキリがありません）、人々の助け合いによってそれがカバーされているのかなと感じました。